

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300054		
法人名	医療法人 ひらまつ病院		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム ふれあい		
所在地	佐賀県小城市小城町287番地22		
自己評価作成日	平成30年2月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年3月8日	外部評価確定日	平成30年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念でもある「利用者様中心の生活を考える」を遂行するため、その方の意向に沿って生活を送って頂けるよう取り組んでいます。「日々の会話・関わり」を大切に、その中から入居者の望みや興味を見出し尊厳と自立を考え利用者一人一人の望みを叶えられるよう活動や環境を提供するように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

五年前の開設に向けた段階で、利用者が歳を重ねていくことを見据えていた工夫が其処彼処に見られる。浴槽のタイプや居室の床、またリビングの畳コーナー等々がそれである。平屋造りで二つの事業所が併設されていることも利用者にとっては交流の場でもある。グループホームエリアから出る廊下で運動をする利用者もある。また法人の体制が整っていることは、家族にとっても医療面や健康面での安心感を与えている。敢えてオムツ類や日用品の補充を依頼し面会を促しているため家族との接点も多く、信頼関係は築けていると自負している。利用者の想いに寄り添い、それに応えられるよう向き合う姿勢が窺える。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「利用者様中心の生活を考える」を遂行するため、職員本位の考えではなくその方の意思に沿って生活を送って頂けるように取り組んでいる。	法人の理念を掲げ、「利用者」「質の高い介護」と一部を言い換え事業所に合う表現にしている。玄関など目に付く場所への掲示や、各々の氏名ホルダーにも入れており意識付けを図っている。日々の関わりの中で利用者に声を掛ける様子や、利用者の意思による選択となるよう支援している姿勢には、理念が活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流を図るために近所に外出や外食をしたり地域の施設に出向いて交流を図れるよう努めている。地域の行事(祭、清掃活動)への参加もおこなっている。	自治会に加入しており回覧板も回ってすることで地域の情報も入っている。近年、事業所行事に周辺住民を招くことはないが、地域に住む一員として清掃活動などの役割りはきちんと果たし、積極的に交流を図っている。小規模多機能事業所と併設のため一緒に取り組むこともある。専門知識を活かし、貢献できることがあればという姿勢でもある。事業所の存在は住民にも認識されており、見守りや連絡を頼める関係は築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度行っている運営推進会議の場において認知症についての勉強会を開催したり認知症の方への対応等を地域の方に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催。利用状況、活動報告、事業所の現状を報告。質疑応答、意見を聴取することでサービス向上につなげている。	会議は約一時間を要し、併設の小規模多機能事業所と合同で開いている。事業所からの報告には職員が受けた研修内容等の説明もあり、力量などを知ってもらえる場でもある。また一般職員も同席することで地域との繋がりが意識できるよう図っている。メンバーから同業種交流会の必要性が出たり、行政側の意向が聞けたり、双方向な意見交換が出来ている。当外部評価の結果も報告される予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所高齢福祉係、地域包括の職員に出席をしていただいていることで事業所の状況報告をおこなっている。	法人として様々な部署もあり、内部で完結できるだけの要素も揃っている。相談事などを行う場合はまず電話を掛け、内容によっては出向くようにしている。運営推進会議で顔見知りでもあり話はしやすく、実直に対応してもらえる関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなっていない。言葉による拘束もあるという認識を職員が持ち行動や言動に対して制限をしないように心がけている。	入居契約時に指針の説明を行っている。事業所内の委員会には身体拘束に関する係りもあり、研修は法人内でも開かれている。玄関に施錠はなく、チャイムやセンサーの設置もない。常に人数を数えるなど職員の目配りによって安全な暮らしが支援されている。もし外へ出るようなことがあれば無理に引き返すことはせず、暫く一緒に歩くというのが基本である。行動を抑えることはない。仮に不適切なケアに遭遇した場合はまず状況を尋ね、委員を経て職員会議でも話し合うこととしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加しその後事業所内で伝達講習を行い、知識を深め職員が何気なく行っている行動や発言も虐待に繋がるという意識を持ち虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で利用されている方や必要な方はいない。今後、必要性が見込まれる場合は活用に向けて支援をおこなう。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書等に沿って説明。家族にも疑問点、不明な点の有無を確認し説明を行い、理解、納得を得た上で同意に伴う捺印を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置。2ヶ月に1度、お便りを出し入居者の活動状況や連絡事項をお伝えしている。意見や要望があれば意見箱に入れていただくよう、お便りに記載している。	家族の来所は多い。オムツ類やティッシュなど日用品の補充を敢えてお願いしていることも面会を促している。オムツ類の種類を知ることには本人の状況を理解することにも繋がっている。職員は直接話ができる機会を大切にしているが、言い難いであろう家族の想いにも応えようとしている。近況を伝え、世間話などで緊張をほぐしながら話しやすい雰囲気作りに努めている。最近ではメールも活用している。また家族も支援者であるとの考えから、健康面などにも配慮をし声を掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員の意見を聞く機会を設けている。必要に応じて代表者へつなげており職員の意見を反映できるように努めている。	月一回、一時間程の職員会議があり、休みの人も概ね出席している。行事や各委員(衛生管理・身体拘束関連・安全対策)の報告、利用者毎のカンファレンスなど流れができており、限られた時間を要領良く進めている。取り上げてほしい事は予め管理者に伝えており、最近の例では利用者の関係性から座る位置が話し合われている。また管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、休暇と勤務変更の希望にはできるだけ沿えるようシフトを組み、コミュニケーションもまた大切にしている。現場の声は法人の上席にも届けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭事、私用の勤務調整をおこなっている。又、職員が希望する研修会へ参加しやすいように勤務調整を行うことで意欲向上、やりがいを持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を開催。職員には力量に応じて外部研修に参加させ得た知識を職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を含む職員はさまざまな外部研修に参加し同業者との関わりを作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス計画書を職員が理解し利用開始時には担当スタッフを中心に関わる時間を多く持つことで本人の思いを把握し不安なく過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族も支援者と意識している。入居するに際しての家族の思いや要望を伺い計画書や支援に生かしている。又、利用状況を家族に連絡することで家族にも安心して頂けるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望があった時点で本人、家族の状況を把握し支援の方法を見極めている。別のサービスを利用した方が良いと見極めた場合は別の事業所に繋げるための支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までどのような生活をされてきたのか、趣味や興味等を把握し入居後も継続できるような環境や関係性作りを行っている。又、できることは継続してもらい本人の意思に沿った支援をおこなっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを優先し面会時には家族の思いや希望を聞く様に心がけケアに反映させている。利用状況や状態を都度報告もしており入居者と家族の関係性を崩さないよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生まれ育った場所や地域にドライブに行く支援をおこなったり家族の協力の下、面会や外出をしていただくよう努めている。	これまでの人間関係などは、本人や家族、担当のケアマネジャー、また利用していたサービス事業所や病院関係者などからも話を聞き情報を集めている。具体的な支援として電話の取次ぎや手紙などがあり、ポストまで一緒に出掛けている。盆正月の一時帰宅(宿泊も)や墓参り、法事への出席なども家族の協力を得ながら応えている。法人にリフト車両があることで、車椅子使用であってもドライブは可能となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士と一緒に過ごせるように席の位置等の配慮をおこない入居者同士で関わりやすい環境を作っている。安全に行える支援内容であれば入居者同士で行っていた関係性を築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も本人・家族や事業所等に面会や情報収集をし関係性を断ち切らないようにしている。その際に相談や思いを告げられた場合は話を伺い少しでも安心していただけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用開始時に本人、家族に思いや希望を伺うことで意向に沿って過ごしていただけるようにしている。利用開始後も担当スタッフを中心に交流を図り本人の意思に沿う支援ができるように努めている。	お茶を飲みながらおやつを食べている時、居室を訪ねて話し相手をしている時、また入浴中の寛いだひとときなど日常の暮らしの中で、特に一対一で傍らにいる時には利用者の想いを聞けることがある。発語が少ない利用者とは日々の関わりの中で傾聴に努めている。利用者の生活歴を踏まえ、行動の背景を推し測り、本人の意思で選択してもらえるような声掛けも日々の積み重ねである。聞き取ったことは伝言ノートに記したり、職員会議でも話題にし共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にサービス利用の経過把握。アセスメントにて生活歴等を把握している。利用開始後も利用状況等を観察することで、その方の暮らし方や過ごし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や入居以前の情報を収集し一日の過ごし方を知る。その上で入居後の過ごし方を観察し生活のリズムを把握することで、その人のペースに応じて過ごして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者担当スタッフを中心に計画作成担当者 と支援の在り方を考え職員全員に伝達、支援 方法を考えている。必要に応じて主治医への 助言聴取もおこなっている。家族面会時には 現状の報告をおこない意向があれば計画書 へ反映させている。	設定期間は、入居してしばらくは毎月、その後 三ヵ月毎、六ヵ月毎と利用者に応じた期間を 設けている。その間に変化があれば臨機応変 な見直しも行っている。本人の希望は日々の ケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や 電話の会話から汲み取っている。家族からは 具体的なものより、このまま安全に過ごしてほ しいという声も多い。来所時やサービス担当 者会議の席で説明をし意見や同意を得てい る。それぞれの計画期間の中間地点で担当 職員による評価も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫 を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しな がら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った個別支援を毎日おこなって いる。入居者担当制を取り入れ担当の入居者 への支援のために情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の日課に捉われることなく本人の思い や意向に沿って支援を行うことで出来る限り柔 軟に支援が行えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(生花等)に事業所へ来所してい ただき入居者と一緒に活動をおこなう機会を 設けている。又、入居者の趣味を生かせる場 所(行事)への参加ができるような支援をおこ なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援し ている	入居後の受診先は限定していない。本人、家 族の希望される医療機関への受診を行ってい ただいている。医療機関との連携も取れるよう にしており必要に応じて助言をいただいている。	もともと母体病院(協力医)の患者だった利用 者には馴染みの医師と病歴も知ってもらえて いる安心感がある。入居後に協力医への変更 を希望した例もあり、月二回の往診など充実 した医療体制の説明を受け納得して変更してい る。また協力医以外の選択も自由であり、意 向を確認し希望に沿った支援を行っている。 受診には、家族が付き添えない場合は職員が 対応しており、事前の確認と受診後には当日 中に結果報告を行っている。家族が付き添う 場合には情報提供表を持参してもらい、日頃 の様子などの的確に医師に伝わるよう配慮して いる。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護に来て頂き入居者様の健康状態などの報告を行い、状態の変化などあれば相談をし入居者様体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書類を通して情報提供を行っている。退院時には病院関係者へ入院中の状態を情報収集し退院後の支援方法を検討している。又、当法人の病院とは日頃より関係性作りで努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまでに1件家族の希望を受け入れ看取りを行った。受け入れるにあたり職員は看取りの外部研修に参加している。家族の意向に合わせ主治医や医療従事者と連携を取り終末期の支援を行うとしている。	入居契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を示し説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意もある。容態の変化に伴い家族の気持ちも揺れ動くことを踏まえ、また家族間の考えに乖離がないかも含めて、何度でも話し合いを重ねることとしている。職員のフォローには日頃から研修等で備え、法人の訪問看護ステーションによる勉強会の用意もある。本人や家族が安心して最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成。医療処置、救急搬送が必要な場合は日頃より管理者・施設長に連絡する体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害訓練を実施している。消防関係者に参加していただいている。運営推進会議の場にて区長や民生委員の協力を求め協力体制、避難場所等を把握することができている。	年二回、夜間は想定のみで昼間帯での訓練を行っている。消防関連の業者にも立会いをお願いしている。平屋造りの事業所は小規模多機能事業所と併設であり合同訓練である。利用者も一緒に避難を体験しており、非常口の誘導灯からは音声誘導が流れる仕組みである。職員は消火器の使い方も承知しており、火災警報器が作動すれば通報装置と連動するシステムも構築されている。防火性のカーテン等を使用するなど意識は高いが、訓練時の近隣住民への周知や協力要請は行っていない。一次避難場所は近所の公民館となっており、解錠などは区長がすぐに対応する手筈になっている。また非常食や水などの備蓄もあり、反省点や課題があれば速やかに改善され、全員に周知されている。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は「人生の先輩」である。ということを念頭に置き言葉づかいや促しを行っている。又、言葉による行動や言動の制限をしないよう職員全員が心がけている。	トイレや入浴の介助は最も羞恥心などへの配慮が求められる場面である。職員は、周囲に見え難い立ち位置でのケアや、ドアは閉めるなど基本的なことをきちんと行っている。入居して間もない頃は同性による介助も心掛けている。個人情報の取扱いに対する職員の意識は高いが、日常の会話には業務内容が含まれる事も多く、声の大きさなどはその都度、説明していくこととしている。入居契約時には個人情報の利用や施設外行事に関することについても確認を行っており、事業所便り等への写真掲載や居室の名前表示にも承諾を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位で誘導をするのではなく本人の意思で選択していただけるような声掛けを意識している。可能な限り自己決定に基づいて過ごして頂けるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に過ごして頂く時間を多く設けており本人のペースで過ごしていただけるようにしている。活動や外出(手作業、家事、近所への散歩等)の希望があれば、できる限り希望に沿えるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に着る服は本人に選んで頂いている。又、職員が選ぶ際でも本人に確認しながら行っていることで、その方らしい身だしなみで過ごして頂けるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を作成する際に入居者の意向を確認したり食事作りの際にも出来る範囲で手伝っていただくことで食事前の楽しみを持って頂けるよう努めている。	献立は、利用者に食べたいものを尋ねながら職員が考えている。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材の時には代替えもある。殆どの利用者に食欲はあるが、なかなか箸が進まない時には高カロリー食の常備もあり、主治医の処方によって備えている利用者もある。できるだけ自分で口へ運んでもらいたいとの思いから、スプーン等の工夫をし声を掛け促している。職員の食事は後回しで介助優先である。後に検査者のみが同じものを食べるが、月二回の行事食では同じものを一緒に食べている。歳を重ねる毎に手伝えることも少なくなっていくが、つぎ分けや後片付けなどと一緒に利用利用者もある。誕生日は本人のリクエスト食や一緒に選びに行ったケーキが用意され当日に祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好に応じ栄養管理を考慮した食事を提供することで食事摂取量の確保に努めている。又、食事摂取量も毎食記録に残し観察と把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は自室の洗面所にて実施。介助が必要な方は共有スペースの洗面所にて見守りや介助をおこないながら実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限りオムツの使用は避け排泄状況、排泄パターンを把握し事前のトイレ誘導を行い排泄の失敗を軽減できるように努めている。	各居室にはトイレが設えてあり、全員が自室を利用している。尿意も分かり自立している利用者も若干名いるが、任せたままではなく、さりげない見守りも行っている。日中はトイレでの排泄を主としているが、夜間も声を掛け誘導することもある。チェック表があることで予測ができ、オムツ類の使用枚数が減った例もある。利用者にとっては費用負担の軽減に繋がっている。また便座回りの手摺りは立ち座りを助け自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が認知症の方に与える影響を理解し、できる限り下剤を使用せず食事や飲み物を工夫している。又、適度な体操や運動を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが午前、午後の選定は本人の意思に沿って行っている。本人の希望があれば入浴日以外でも入浴の支援を行っている。	入浴は週三回を目途にしているが、希望や必要があればその限りではない。事業所の特長は浴槽のデザインである。縁をまたぐのではなくソファに座るような動作で楽に入浴ポジションにいける。利用者だけではなく介助する職員にとっても安全で快適な入浴支援が出来る。拒む人にはタイミングをずらしてみたり、声掛けなどの成功例を伝言ノートで共有し実践している。入浴日以外では清拭を行い、夏場であればシャワーでの対応もある。またヒートショック対策には脱衣場から暖気を送ったり、予めシャワーを出し浴室内温度を高めている。衣服の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設けておらず本人の意思に沿って自由に就寝していただけるようにしている。居室には馴染みの深い物を配置し安心して休むことができるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がそれぞれ定期的診療など対応に入り薬の変更などあれば申し送りを行い職員全体に周知するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味や活動の時間を取っていただけるよう職員が付き添い支援し気分転換を図れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ行きたい様子が見受けられた際は、その思いを抑制する事なく職員と一緒に散歩やドライブに付き添わせていただいている。普段は行けないような場所へは職員の勤務数を調整し可能な限り行えるよう努めている。	本人の口から希望が聞かれることは難しいが、話題を振れば興味は示してくれる。季節毎の花見など年間計画もあり、法人のリフト車両も使ってドライブにも出掛けている。また天候や体調をみながら日常的な散歩も心掛けており、避難経路でもある公民館方面やその先の公園がコースとなっている。職員は、日差しを浴びることのメリットや五感の刺激なども理解している。殆ど外へ出ないという利用者はいない。自己評価欄では「日々をその人らしく自由に過ごす時間を多く設け、活動や外出等の希望があれば出来る限り沿えるように」とも記している。廊下続きではあるが、小規模多機能事業所側を訪れることもある。	

自己	外部	項 目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	適切に金銭の保管・管理ができる方は買い物をする事への意欲を持っており本人の意思で買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの連絡があった場合は本人と話ができるようにつないでいる。手紙の返信が書ける方であれば書いていただき一緒にポストへ投函に行っている。又、入居者より家族へ連絡を取りたいと希望があればすぐに連絡をするよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方に与える影響を理解し悪い刺激になる物は無くせるよう努めている。外出時の写真を掲示。行事やケアドライブへの支援をおこない季節感を感じながら過ごしていただける様にしている。	利用者が集まるリビングの一角には畳が設えてある。程高い高さに作られ椅子代わりに腰をおろす利用者もある。ソファは自由に配置され、思い思いの場所で寛ぐことが出来る。対面式キッチンからは料理をする音や匂いがして食事時を知らせている。家庭と同じである。自己評価欄にある認知症に与える悪い刺激とは光や音に加え行動を制限するようなものと位置づけ、廊下に歩行を妨げるものもない。強い日差しにはレースカーテンで対応し、騒音は殆どない。時には窓を開け換気をし、手を触れる箇所の消毒はこまめに行っている。浴室や各居室のトイレもきれいに掃除され、不快な臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごしていただく時間を多く取っている事と共有スペースにソファや畳の場所があることで入居者の思いに沿って過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族が希望する私物に関しては可能な限り持ち込んで頂き、自宅で過ごしていた居室環境に近づけるように工夫をしている。	火気など危険物以外に居室に持ち込む品物の制限はしていない。掃除は職員が行い、居室内のトイレについては汚れ等に気付けばその都度行っている。色紙や家族の写真等は見やすい位置などを話しながら一緒に飾っている。家族が飾っていくこともあり、居心地良く過ごしてもらえよう支援している。また居室タイプには畳とフローリングがあり、それぞれの良さが活かされている。希望すれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室には馴染みのある物を持ってきていただき、これまでの生活に近づけるような環境を作り本人が出来る事、興味を持つことは続けられるよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない